

2020 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	唐井 隆徳
研究テーマ	縁起説における触と受の関係について
研究概要	初期仏典を中心に、縁起支「触」「受」の用法を調査し、縁起説における二支の役割を明らかにする。

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>初期仏典を中心に、縁起支「触」「受」の用法を調査し、縁起説における二支の役割を考察した。その結果、両語が認識過程の要素を担っていることに疑いの余地はない。ただし、六処も含め、輪廻の生存における業の果報を表す場合もあるため、識と名色の理解に関係なく、「六処→触→受」の縁起関係は認識論的にも輪廻的にも解釈可能であるということが明らかとなった。</p>
2. 学術論文・学会発表等	<p>①論文：「初期仏典における縁起説の輪廻的解釈について —触・受の用法をめぐって—」『印度學佛教學研究』69-1, pp. 450-455. 日本印度学仏教学会（2020年12月、査読有）</p> <p>②論文：「「触」と「受」の用法から見る縁起説 —認識論的解釈と輪廻的解釈をめぐって—」『佛教大学仏教学会紀要』26, pp. 131-153. 佛教大学仏教学会（2021年3月、査読有）</p> <p>③発表：「初期仏典における縁起説の輪廻的解釈について —触・受の用法をめぐって—」日本印度学仏教学会（2020年7月リモート開催 於：創価大学）</p>
3. 今後の課題	<p>本研究に基づき、他の縁起支との関わりや縁起説自体の意味をさらに考察していく。</p>